

アジア大陸選手権大会 in マレーシア・マラッカ レースレポート

BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM 齊藤 亮

+++++

大会名：アジア大陸選手権大会 2015

期日：2015年8月16日（日）

会場：マレーシア / マラッカ

天気/気温：晴/曇 33℃

競技種目：男子エリート 4.3km x 8 Laps

参加数：37名

結果：8位

Web：<http://www.asiancycling.com/>

+++++

8月14日、MTBアジア選手権2015が、マレーシア初の世界文化遺産に登録された街マラッカで開幕した。16日（日）のクロスカンントリー競技までの3日間に渡り、各種目のアジアナンバーワンを決定する大会だ。その大会初日の14日に行われたのは、エリート男女とジュニア男女の合計4名がそれぞれクロスカンントリーコースを1周ずつ走るチームリレーが行われた。自分はチームリレーを走らずに、個人戦だけに標準を合わせ最終調整することを選択した。ベストメンバーで挑むことはなかった日本チームだが、それでも最後まで健闘し、0.03秒差で惜しくも2位でのフィニッシュ。オープニングレースに相応しい勢いを日本チームにもたらしてくれた。アジア選手権大会ではいろいろな状況（生活環境、食事、水、衛生面）が厳しく、それはこれまでの経験から十分知っていて対策もしてきた。マレーシア・マラッカの気候は湿度も高く暑かったけれど、それも想定内だった。色々な状況下を過程して当日を迎える。いつも早朝（朝食前）に行う40分のライドもこの日は止めた。暑さから奪われる体力消耗を少しでも軽減するために。

（今思うとやっぱり走るべきだったかなと・・・）のんびりと朝食を取り、部屋でリラックスしながらレース準備をした。極力暑さを凌ぐため、会場入りは1時間前。到着後すぐにトレーナーにスタートオイルを身体中に塗って頂き、暑さ対策もバッチリ。メカニックは最高の状態にバイクを仕上げた。それぞれがそれぞれの持ち場をしっかりと全うし、落ち着いた状態で選手を迎え入れてくれる。今回の日本チームの団結力や行動力は本当に素晴らしく信頼できるチームワークだった。男子エリートのスタートは定刻通り13時。UCIポイント順にコールアップされ、6番目にスタートラインへ。最前列ではあるが、右端の荒れた路面。今回のコースはスタート直後、数百メートルでシングルトラックとなり、スタートの位置取りが重要となるため失敗は許されない。そして、チームオーダーとしてエースの山本幸平選手を安全な位置でスタートさせ、最初のシングルまでは全員でアシストすることがミッションの1つ。個人戦でありながら、国対抗であるので団体戦のようなもの。戦略が失敗すれば取り返しの付かないことになりかねない・・・。スタート1分前、30秒前、10秒も経たないうちにバァーン！とピストル音。一瞬、えっ！？と思っ焦ったが、何とか反応してスタートを切る。やはり端っこのスタートは路

面が悪いのに反応も遅れてしまい負のスパイラル。自分を落ち着かせようと必死に前で位置取りをするが、致命的ともいえるスタートの遅れは良い流れをもたらしてくれない……。最初のシングルトラックを15番手くらいで進入し、前に行きたいもどかしさと、抜くときに必要以上にダッシュを繰り返すため脚の消耗も激しい。3周目あたりからようやくペースが安定し、パックも分散し始めてくる。自分が思い描いていたイメージの展開とは全く異なる現実……。トップは山本選手が独走状態、2位集団が6名のパック（中国2人、日本2人、台湾、カザフスタン）。その数秒後の3人パック（イラン、タイ）に自分が展開するカタチでレースが進んでいく。前の6名の集団に追いつきたいけど、自分のパックは皆消極的で先頭を引こうとしない。徐々に前のパックからもタイム差が開き始め、イライラは募る。平坦基調でテクニカルセクションが少ない分、ロードレース的な要素が必要でパワー系の選手が有利なコース。自分向きのコースではないのは試走時段階で分かっていたが、パックと単独ではここまで平均スピードが違うのかと思われ知らされた。6周目に単独で3名パックから飛び出し、前の6人パックを必死で追った。十分な給水と掛水で身体を冷やし、荒れる呼吸を必死で整える。1つでも前へ。1秒でも先に。この気持ちだけは持ち続けた。最終ラップでは前のパックが分断されているのが確認出来た。最後まで何があるか分からない。気持ちを切らさず必死でゴールを目指す。結局前の選手を捉えることが出来ずに8位でフィニッシュとなった。ただ純粋に悔しい。自分の力を発揮出来たのか・・・持ち味を出せたのか・・・それも分からないまま終わってしまった。しかし、この結果は受け入れて、これが実力だったと認めないといけない。ただ日本チームとしては皆がフォローし合い、尊重した中で高め合えたと思う。また1つ良いレース経験が出来たのは確か。昨年に引き続き、今回も満足いく結果を残せなかったのは残念で悔しい気持ちでいっぱい。しかし、まだまだ続く後半シーズンに向けて課題を明確にし、キレのある走りを早く取り戻したいと思う。来月からはオーストリアでのUCIレースを転戦するため、また海外遠征に出発する予定。この悔しさと反省、経験をしっかりと次戦のレースに活かし必ずリベンジしたい。

日本で、現地で、たくさんの皆さんに応援・サポートして頂き心から感謝しています。更に上を目指し飛躍していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

【リザルト】

- 1.山本幸平 / Japan
2. Zhen WANG / China
3. Chun Hing CHAN / Hong Kong
4. Kirill KAZANTSEV / Kazakhstan
- 5.武井享介 / Japan
- 7.平野星矢 / Japan
- 8.斉藤 亮 / Japan
- 11.門田基司 / Japan

【使用機材】

バイク : ANCHOR / XR9 (S サイズ)

コンポーネンツ : SHIMANO / XTR Di2(FC-M9000-2) 34T

ホイール : SHIMANO / XTR WH-M9000-TL-27.5

シューズ : SHIMANO / SH-XC90

ペダル : SHIMANO / PD-M9000

ハンドル : SHIMANO PRO / THARSIS

ステム : SHIMANO PRO / THARSIS

シートポスト : SHIMANO PRO / THARSIS

フロントフォーク : SR SUNTOUR / AXON-WERX-RC-RL-RC AH CTS 27.5/100MM

タイヤ : MAXXIS / IKON (27.5×2.20)

サドル : fi'zi:k / TUNDRA2

ヘルメット : KABUTO / ゼナード(ジャパンモデル)

サングラス : adidas eye wear / evil eye halfrim pro / グレイメタリック

ケミカル : [HOLMENKOL](#)

時計メーター : SUUNTO / AMBIT2S

ネックレス : SEV

ドリンク : SAVAS (株式会社明治)

サプリメント : SAVAS (株式会社明治)

レースウェア : WAVE ONE

レースグローブ : KABUTO / PRG-3

アンダーウェア : CRAFT

インソール : SUPER feet / Black

アパレルウェア : Columbia

ザック : deuter

テーピング : New-HALE

